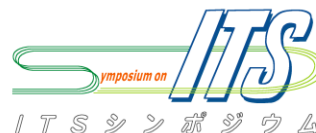


第 24 回 ITS シンポジウム 2026

2026 年 11 月 12 日(木)~13 日(金)



札幌市教育文化会館 <https://www.kyobun.org/>

Call for Papers

テーマ：次世代モビリティ社会を拓く ITS

-データ×AI による地域レジリエンス向上に向けて-

人口減少や気候変動、災害リスクの増大を背景に、交通システムには、社会・経済活動を支える基盤としての持続性と強靱性の確保が求められている。本シンポジウムの開催地である北海道は、広域分散型の都市構造と積雪寒冷地特有の厳しい気象条件を有し、交通サービスの維持、冬期交通への対応、広域移動需要への対応など、我が国の課題を先取りする地域である。こうした課題に対し、低人口密度地域においても安定的に機能する交通・物流システムの構築は、平時の効率性向上に加え、災害時の交通機能の維持・早期回復を通じて、地域レジリエンスの向上に寄与する。その実現には、交通・エネルギー・情報を統合し、平時・非常時を通じて安定的にサービスを提供する仕組みの構築が不可欠である。

近年、ITS はデータと AI の進展により、交通需要の把握・予測や運行最適化を支える基盤へと進化している。さらに、電動化や水素など多様なエネルギーの活用が進み、モビリティとエネルギーの融合も加速している。本シンポジウムでは、北海道における実践を起点に、データ×AI とエネルギーの統合による地域レジリエンスの強化に着目し、次世代モビリティ社会を支える ITS のあり方について議論する。産学官の連携のもと、全国展開を見据えた新たな方向性を展望する。

投稿時に「査読あり」「査読なし」のいずれかをお選びください。査読ありを希望され、採択された論文は International Journal of Intelligent Transportation Systems Research (IJIT) に掲載されます。

●査読あり（特集号の募集はいたしません。採用論文は通常号に掲載されます。）

- (1) 提出期限：5月31日(日)
- (2) 提出物： A4 サイズ 10 ページ以内のフルペーパー。使用言語は英語のみとします。
指定のフォーマットに従って作成してください。
フォーマットは https://www.its-jp.org/katsudou/its_symposium/24th2026/cfp/ に掲載します。
- (3) 掲載： 採択された論文はジャーナル通常号に掲載します。シンポジウム開催までに採用に至らなかった場合も引き続き査読を受けることができ、採択された時点でジャーナルに掲載します。採否結果は 10 月末より順次ご連絡する予定です。
- (4) 発表： 論文の採否に関わらずシンポジウムでの発表を必須とします。ジャーナルとの二重掲載を避けるため、シンポジウムでは投稿論文のプレプリントを ITS Japan ウェブサイトに掲載させていただきます。
- (5) 投稿先： <http://www.editorialmanager.com/ijit/> Article Type は **ITS Symposium** を選択してください。

●査読なし

- (1) 提出期限：7月21日(火) ※例年より1ヶ月早くなっています。ご注意ください。
- (2) 提出方法：250字程度のアブストラクト。使用言語は日本語または英語。
- (3) 提出先： https://www.its-jp.org/katsudou/its_symposium/24th2026/cfp/ でご登録ください。
- (4) 最終原稿：8月下旬に採否結果を通知しますので、10月5日(月)までに A4 サイズ 6 ページ以内のフルペーパーをご提出ください。ITS Japan ウェブサイトに掲載させていただきます。
- (5) 発表： シンポジウムでの発表を必須とします。

人を対象とする研究においては研究対象者の尊厳および人権を尊重するとともに、被験者の生命・健康・安全の確保に配慮しなければなりません。研究対象者に係るデータや情報は適切に扱い、プライバシーを保護するとともに、被験者からインフォームド・コンセントを得なければなりません。また、研究を計画、実施するにあたっては所属機関等の倫理委員会の承認を得ることが必要です。

| 査読あり（特集号論文・通常論文） | | 査読なし | |
|------------------|-------|--------|-------|
| 投稿締切 | 5月31日 | 投稿締切 | 7月21日 |
| 1次判定結果通知 | 7月末 | 採否通知 | 8月下旬 |
| 修正論文提出 | 8月末 | 最終論文提出 | 10月5日 |
| 発表資料提出 | 10月中旬 | 発表資料提出 | 10月中旬 |
| プレプリント公開 | 11月1日 | 論文公開 | 11月1日 |

■参加登録料

| タイプ | 11月4日まで | | 11月5日より | | |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 会員 | 非会員 | 会員 | 非会員 | |
| 聴講 | 社会人 | 15,000円 | 20,000円 | 18,000円 | 23,000円 |
| | 学生 | 3,000円 | | | |
| 論文発表 | 社会人 | 15,000円 | | | |
| | 学生 | 8,000円 | | | |

※会員とは、ITS Japan 賛助会員、ITS Japan 正会員団体・企業に所属する方、および協賛学会の個人会員を指します。

■募集する通常論文の分野

A. Challenges and Opportunities of Big Open Data

Open data management and application
Data sharing and exchange
Ubiquitous sensing
Technology for data collection
Availability and quality of data
Data visualisation
Data fusion
Predictive analytics
New business models for traveler information
Security in an open environment

B. Smart Cities and New Urban Mobility

Integrated transport system
Next generation traffic management
Transport modelling
Road user charging
Travel demand management
Integrated ticketing and payment
Incident management

C. Automated Vehicles and Cooperative ITS

V2X Communication technologies and Cooperative systems
Human factors and human machine interface
Field operational tests, pilots and demonstrations
Positioning, mapping and navigation
Security and integrity for connected and automated vehicles
Mobility as a service
Infrastructure and regulation needs for a mixed-capability fleet

D. Mobile Applications

Multi modal real time information
Multi modal journey planner
Demand responsive public transport
Taxi and parking reservation
Real time traffic advisory

E. Vehicle and Network Safety

Speed advice and restriction
Technology and system for safety and enforcement
Advanced driver assistance and support systems
Human factors
Emergency pre-emption and notification
Post-crash response
Improving safety of vulnerable road users
e-call
Roadwork safety and inclement weather management
Preventative and active safety systems

F. Future Freight including Aviation and Maritime

Freight and fleet management
Logistics
Railway network operation
Unmanned aerial vehicles (UAS / RPAS / Drones)

G. Environmental Sustainability

Environmental impact reduction
Electro mobility and charging
Eco driving
Reducing noise
Car sharing, bicycle sharing and ride sharing
Encouraging active transport and mode shift

■第24回 ITS シンポジウム 2026

主催： 特定非営利活動法人 ITS Japan

協賛(予定)： 計測自動制御学会, 交通工学研究会, 自動車技術会, 情報処理学会, 人工知能学会, 電気学会, 電子情報通信学会, 土木学会, 日本機械学会, 日本交通心理学会, 日本ロボット学会, 自動車技術会モビリティ社会部門委員会, 情報処理学会高度交通システムとスマートコミュニティ(ITS)研究会, 情報処理学会コンピュータビジョンとイメージメディア研究会, 情報処理学会ユビキタスコンピューティングシステム研究会, 電気学会 ITS 技術委員会, 電子情報通信学会 ITS 研究会

実行委員長 吉井稔雄 北海道大学公共政策大学院 教授

プログラム委員長： 有村幹治 室蘭工業大学 大学院工学研究科 もの創造系領域 土木工学ユニット 教授

同 委員： 江丸貴紀(北海道大学), 川村武(北見工業大学), 鈴木雄(北海道大学), 瀬尾亜希子(パシフィックコンサルタンツ株式会社), 高橋歩夢(株式会社ドーコン), 高橋翔(北海道大学), 竹田雅弘(トヨタ自動車株式会社), 峪龍一(北海道大学), 永田泰浩(一般社団法人北海道開発技術センター), 日野智(北海学園大学), 本田肇(国土交通省北海道開発局), 牧昌弘(パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社), 四辻裕文(国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所), 山下倫央(北海道大学)

問合せ先： ITS シンポジウム事務局 its-symposium@its-jp.org